

---

# 刊行資料（過去 5 年間）

---

緑化生態研究室で行った技術開発・調査研究の成果をまとめた資料の内、過去 5 年間分を掲載しております。

※2000 年度からの緑化生態研究室刊行の資料一覧と 2005 年度からの「国土技術政策総合研究所資料」（2004 年度以前については一部）を、以下に掲載しております。

緑化生態研究室ホームページ「研究成果」（<http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/seika.html>）

各施策・事業実施の基礎資料として、またその他研究の参考として活用していただければ幸いです。

国土技術政策総合研究所資料

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
623	緑化生態研究室報告書 第 25 集 Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (25th)	平成21年度に緑化生態研究室が実施した、以下のテーマに基づく研究の成果報告である。 ・地球温暖化対策の技術支援 ・環境影響評価の技術支援 ・外来生物等への適切な対応 ・樹木管理の高度化 ・景観の保全と再生に向けた技術支援	緑化生態研究室	地球温暖化 生物多様性 緑化 景観	2011.1
621	沖縄における都市緑化 樹木の台風被害対策の 手引き Manual of countermeasures against typhoon damage on urban planting trees in Okinawa	台風の襲来を受けることが多い沖縄地方においては、倒木等による都市緑化樹木の被害が多く発生し、周辺施設の破損や道路交通の遮断などのほか、人的被害にまで至る可能性もある。 本手引きは、沖縄における都市緑化樹木の台風被害を軽減させることを目的として、台風被害の実態調査結果から被害要因を明らかにした上で、台風被害に強い樹木を育成するための緑化手法をとりまとめたものである。	飯塚 康雄 松江 正彦 長濱 庸介	沖縄 都市緑化樹木 台風被害 緑化手法 維持管理	2011.1
567	緑化生態研究室報告書 第 24 集 Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (24th)	平成20年度に緑化生態研究室が実施した、以下のテーマに基づく研究の成果報告である。 ・地球温暖化対策に関する研究 ・環境影響評価の技術支援に関する研究 ・外来生物等への的確な対応に関する研究 ・景観の保全と再生に関する研究 ・美しい街路景観の形成に関する研究	緑化生態研究室	地球温暖化 生物多様性 景観 緑化	2010.1
566	巨樹・老樹の保全対策 事例集 Preservation measures case collection of giant and old trees	本資料は、過去に行われた代表的な巨樹・老樹の保存対策事例を抽出して、現地で詳細な保全対策方法を確認した上で、その効果を樹木成長状況により明らかにしたものである。	松江 正彦 飯塚 康雄	巨樹 老樹 保全対策 維持管理 対策効果	2010.1
565	景観重要樹木の保全対策 の手引き Manual of preservation measures for important trees for landscape	景観重要樹木の管理指針策定のための基礎資料として、樹木の診断とその結果から立案する保全対策方法、さらに保全対策後の維持管理方法について、「景観重要樹木の保全対策の手引き」としてとりまとめた。	松江 正彦 飯塚 康雄	景観重要樹木 巨樹 景観 保全対策 樹木診断 維持管理	2010.1

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
542	隣接施設・街路等と連携した都市公園の整備・管理ガイドライン(案) ー都市公園から発信するまちの景観形成ー Draft Guidelines for the Construction and Management of City Parks in Cooperation with Adjacent Facilities and Neighboring Streets and Space -Urban Landscape Development Evolving from City Parks-	都市公園は、それ自体が緑とオープンスペースとして良好な都市景観を形成するだけでなく、隣接する河川、道路等施設や再開発事業等と一体となって、周辺一帯の良好な景観形成に寄与するものであり、都市公園がより良好な景観を形成・誘導していくことが期待されている。このことをふまえ、都市公園と周辺地区や隣接施設とが連携して良好な景観を形成している事例を収集し、今後の連携に役立つよう事例集として整理した。また、事例を参考として、自治体の都市公園整備・管理担当者を対象に、段階ごとの連携の留意点や隣接施設等の特性に応じた連携手法等を取りまとめたガイドライン案を作成した。	松江 正彦 影本 信明	都市公園 都市景観 景観法 景観重要公共施設 公共施設 公園整備 公園管理 ガイドライン 事例集	2009.8
506	わが国の街路樹VI The Street tree of Japan VI	本資料は、わが国の道路緑化現況を把握することを目的として、道路緑化率、道路緑化樹木本数、樹種等について調査を行ったものである。 道路緑化率については、国土交通省道路局が実施した全国道路情勢調査(道路交通センサス:平成17年4月1日時点)の一般交通量調査個所別基本表を用いて算出した。この調査対象道路は、一般国道、主要地方道、一般地方道である。また、道路緑化樹木本数等については、平成19年3月31日現在供用済みの道路を対象にアンケート調査を実施した。この調査対象道路は、国土交通省、都道府県、市町村、地方道路公社、高速道路会社(東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社、阪神高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社)が管理する道路である。	松江 正彦 武田 ゆうこ	街路樹 並木 道路緑化 緑化率 統計	2009.1
489	国土交通省国土技術政策総合研究所緑化生態研究室報告書第23集 Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (23rd)	平成19年度に緑化生態研究室が実施した、以下のテーマに基づく研究の成果報告である。 ・地球温暖化対策への対応に関する研究 ・自然共生・生物多様性の確保に関する研究 ・都市公園・道路空間等の緑の確保に関する研究 ・緑豊かで良好な景観形成の支援に関する研究	緑化生態研究室	地球温暖化 自然共生 生物多様性 緑化 景観	2008.12

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
436	中分解能衛星画像による緑地の変遷解析手法に関する研究 A study on the change analysis method of urban green coverage using middle-resolution satellite data	全国規模でのデータ入手が可能な中分解能衛星データに着目し、効率的・効果的に緑地の変遷を把握する技術手法を精度、作業量を確認しながら開発・整理することを目的として研究を実施した。特に、都市域において行われている緑化等により増加した個々の樹林地の変遷が、確実に把握できるレベルまで精度を高めるための技術開発を行うことを目的として研究を実施した。その結果、精密幾何補正や影の除去による検討等により、全国ベースでも30%以内の誤差で緑地の増加・減少を把握することが可能となった。	松江 正彦 影本 信明	LANDSAT ASTER ALOS 地球温暖化 京都議定書 都市の緑地	2008.3
434	景観デザイン規範事例集(河川・海岸・港湾編) Best Practice Case Studies in Infrastructure Design: River, Coast and Port	本事例集は、河川・海岸・港湾分野の公共事業において、景観・デザインに配慮した計画・設計を行う際に、参考となる事例を示し、その考え方や技術的情報を参照できるよう作成したものである。 公共空間を設計する上での規範となりうる事例について、諸元(所在地、管理者、設計者、施工者、建設年、構造物及び空間の規模等)、設計の経緯、設計の特徴ならびに景観デザインとして優れた点、周辺の地形や街並み等との関係を示す位置図、構造物や空間の全容及び構成要素に関する図面、写真等を含む事例集とした。	松江 正彦 小栗 ひとみ 福井 恒明 上島 顕司	景観デザイン 規範事例 公共事業 河川 海岸 港湾	2008.3
433	景観デザイン規範事例集(道路・橋梁・街路・公園編) Best Practice Case Studies in Infrastructure Design: Road, Bridge, Street and Park	本事例集は、道路・橋梁・街路・公園分野の公共事業において、景観・デザインに配慮した計画・設計を行う際に、参考となる事例を示し、その考え方や技術的情報を参照できるよう作成したものである。 公共空間を設計する上での規範となりうる事例について、諸元(所在地、管理者、設計者、施工者、建設年、構造物及び空間の規模等)、設計の経緯、設計の特徴ならびに景観デザインとして優れた点、周辺の地形や街並み等との関係を示す位置図、構造物や空間の全容及び構成要素に関する図面、写真等を含む事例集とした。	松江 正彦 小栗 ひとみ 福井 恒明 上島 顕司	景観デザイン 規範事例 公共事業 道路 橋梁 街路 公園	2008.3
428	国土交通省国土技術政策総合研究所緑化生態研究室報告書第22集 Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (22nd)	本報告書は、緑化生態研究室が平成18年度に行った調査・研究の概要ならびに、当研究室のスタッフが平成18年度に学会や雑誌などで発表した論文を収録したものである。	緑化生態研究室	地球温暖化 自然共生 生物多様性 緑化 景観	2007.12

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
400	<p>道路環境影響評価の技術手法</p> <p>15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.3 自動車の走行に係る人と自然との触れ合いの活動の場 (Ver.2-1)</p> <p>15. Site for Interaction between Human and Nature 15.3 Impact to Site for Interaction between Human and Nature by Road Traffic Environment Impact Assessment Technique for Road Project</p>	<p>本資料は道路事業における環境影響評価の15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.3 自動車の走行に係る人と自然との触れ合いの活動の場を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具的手法を示し、その内容に解説を加えた。</p> <p>平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。</p>	<p>小栗 ひとみ 松江 正彦 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦</p>	<p>環境影響評価技術 道路事業 動物 植物 人と自然との触れ合いの活動の場</p>	2007.6
399	<p>道路環境影響評価の技術手法</p> <p>15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る人と自然との触れ合いの活動の場 (Ver.2-1)</p> <p>15. Site for Interaction between Human and Nature 15.2 Impact to Site for Interaction between Human and Nature by Construction Yard and Construction Service Road Environment Impact Assessment Technique for Road Project</p>	<p>本資料は道路事業における環境影響評価の15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る人と自然との触れ合いの活動の場を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具的手法を示し、その内容に解説を加えた。</p> <p>平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。</p>	<p>小栗 ひとみ 松江 正彦 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦</p>	<p>環境影響評価技術 道路事業 道路 植物 人と自然との触れ合いの活動の場</p>	2007.6
398	<p>道路環境影響評価の技術手法</p> <p>15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る人と自然との触れ合いの活動の場 (Ver.2-1)</p> <p>15. Site for Interaction between Human and Nature 15.1 Impact to Site for Interaction between Human and Nature by Highway Structure Environment Impact Assessment Technique for Road Project</p>	<p>本資料は道路事業における環境影響評価の15. 人と自然との触れ合いの活動の場 15.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る人と自然との触れ合いの活動の場を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具的手法を示し、その内容に解説を加えた。</p> <p>平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。</p>	<p>小栗 ひとみ 松江 正彦 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦</p>	<p>環境影響評価技術 道路事業 動物 植物 人と自然との触れ合いの活動の場</p>	2007.6

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
397	道路環境影響評価の技術手法 14. 景観 14.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る景観(Ver.2-1) 14. Landscape 14.2 Impact to Landscape by Construction Yard and Construction Service Road Environment Impact Assessment Technique for Road Project	本資料は道路事業における環境影響評価の14. 景観 14.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る景観を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具合的手法を示し、その内容に解説を加えた。 平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。	小栗 ひとみ 松江 正彦 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦	環境影響評価技術 道路事業 動物 植物 景観	2007.6
396	道路環境影響評価の技術手法 14. 景観 14.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る景観(Ver.2-1) 14. Landscape 14.1 Impact to Landscape by Highway Structure Environment Impact Assessment Technique for Road Project	本資料は道路事業における環境影響評価の14. 景観 14.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る景観を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具合的手法を示し、その内容に解説を加えた。 平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。	小栗 ひとみ 松江 正彦 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦	環境影響評価技術 道路事業 動物 植物 景観	2007.6

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
393   395 別冊	道路環境影響評価の技術手法 (別冊 事例集 動物、植物、生態系) Environment Impact Assessment Technique for Road Project	道路事業における動物、植物、生態系に関する環境影響評価にあたっては、環境保全措置(回避・低減・代償)の検討と、その環境保全措置の効果に不確実性が伴う場合には、事後調査計画の検討が必要となる。環境保全措置の計画検討にあたっては、従来より科学的知見や類似事例を参考に実施することとしているが、動物、植物、生態系における科学的知見や類似事例等は全般的に不足しており、現場の担当者は非常に苦慮している実態となっている。そのようなことより、動物、植物、生態系に対する環境影響評価での環境保全措置および事後調査計画を行う場合の参考となるように、今回全国的な規模で、Ⅰ．動物の生息地の分断対策 Ⅱ．希少猛禽類の対策 Ⅲ．動物、植物の移植・移設 Ⅳ．動物、植物に対する道路照明設備の配慮、各々について、環境保全措置と事後調査結果の事例を収集し、それを事例集としてとりまとめたものである。本事例集は、「道路環境影響評価の技術手法」の13. 動物、植物、生態系の事例集として、動物、植物、生態系における道路環境影響評価を実施する際の参考として、代表的な事例をとりまとめたものであり、本事例集を参考として、各現場に適した対策を検討していくことが望まれる。	大塩 俊雄 松江 正彦 上坂 克己 大西 博文 角湯 克典 小根山 裕之 小菅 敏裕 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦		2007.6
395	道路環境影響評価の技術手法 13. 動物、植物、生態系 13.3建設機械の稼動に係る動物(Ver.2-1) 13. Flora, Fauna, Ecosystem 13.3 Impact to Animals by Construction Machines (Ver.2-1) Environment Impact Assessment Technique for Road Project	本資料は道路事業における環境影響評価の13. 動物、植物、生態系 13.3 建設機械の稼動に係る動物を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具合的手法を示し、その内容に解説を加えた。平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。	大塩 俊男 松江 正彦 上坂 克己 大西 博文 角湯 克典 小根山 裕之 小菅 敏裕 藤原 宣夫 森崎 耕一 石坂 健彦	環境影響評価技術 道路事業 動物 植物 生態系	2007.6

巻号	表題	概要	著者名	キーワード	発行年月
394	<p>道路環境影響評価の技術手法</p> <p>13. 動物、植物、生態系</p> <p>13.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る「動物」、「植物」、「生態系」(Ver.2-1)</p> <p>13. Flora, Fauna, Ecosystem 13.2 Impact to Flora, Fauna and Ecosystem by Construction Yard and Construction Service Road (Ver.2-1)</p> <p>Environment Impact Assessment Technique for Road Project</p>	<p>本資料は道路事業における環境影響評価の13. 動物、植物、生態系、13.2 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置に係る「動物」、「植物」、「生態系」を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具合的手法を示し、その内容に解説を加えた。</p> <p>平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。</p>	<p>大塩 俊男          松江 正彦          上坂 克巳          大西 博文          角湯 克典          小根山 裕之          小菅 敏裕          藤原 宣夫          森崎 耕一          石坂 健彦</p>	<p>環境影響評価技術          道路事業          動物          植物          生態系</p>	2007.6
393	<p>道路環境影響評価の技術手法</p> <p>13. 動物、植物、生態系</p> <p>13.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る「動物」、「植物」、「生態系」(Ver.2-1)</p> <p>13. Flora, Fauna, Ecosystem 13.1 Impact to Flora, Fauna and Ecosystem by Highway Structure (Ver.2-1)</p> <p>Environment Impact Assessment Technique for Road Project</p>	<p>本資料は道路事業における環境影響評価の13. 動物、植物、生態系13.1 道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る「動物」、「植物」、「生態系」を対象に環境影響評価を行う場合の一般的な技術手法を示したものである。事業特性の把握、地域特性の把握、調査、予測、環境保全処置の検討及び評価を行う場合の具合的手法を示し、その内容に解説を加えた。</p> <p>平成19年度版においては道路事業に係る環境影響評価の項目及びに当該等項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全の為の処置に関する指針等を定める省令(平成十年建設省令第十号)の平成18年3月の改正に伴い改正を行った。</p>	<p>大塩 俊男          松江 正彦          上坂 克巳          大西 博文          角湯 克典          小根山 裕之          小菅 敏裕          藤原 宣夫          森崎 耕一          石坂 健彦</p>	<p>環境影響評価技術          道路事業          動物          植物          生態系</p>	2007.6